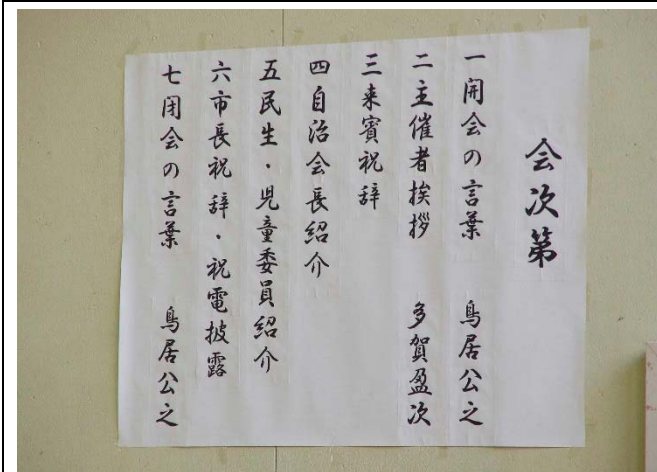


佐鳴台地区敬老会

平成26年9月14日 佐鳴台小学校体育館

秋晴れの敬老会日和になり、大勢のお年寄りが参加し、午前10時から佐鳴台地区の敬老会が開催されました。主催者挨拶、来賓祝辞、自治会長、民生・児童委員紹介の後、市長祝辞読上げ、祝電披露で第1部の敬老会は終了。

第2部として日本一の浜松花蝶ちゃんによるチンドコ・コント55才で大いに盛り上がり、ヘルスボランティア 大地によるリハビリ体操で体をほぐし、佐鳴台般若連のお囃子、佐鳴台小学校金環バンド・佐鳴台中学校の吹奏楽部演奏による昔懐かしい曲など楽しみました。佐鳴台中学校の皆さんのボランティアもあり無事終了することができました。ありがとうございました。





市長祝辞

皆様、本日は誠にありがとうございます。
こうして、お元気に敬老の日を迎えられますことを心からお慶び申し上げます。
また、これまで浜松市や地域の発展に多大なご尽力を賜りました皆様に改めて敬意を表しますとともに、厚く感謝御礼申し上げます。

さて今年度、市内で百歳以上の方は、およそ六百人いらっしゃいます。長寿の方が大変増えたことにも驚きですが、最近では、高齢にもかかわらず、はつらつと活動的な方が、多いことにも驚かされます。
そのことを裏付ける報告が、先日、厚生労働省から発表されました。それは全国二十大都市の健康寿命の調査結果です。

健康寿命は、介護を必要とせず健康な状態で生活できる期間のことです。浜松市は男性が約七十三歳、女性が約七十六歳で、どちらも全国第一位という大変すばらしい結果となりました。
健康寿命が長い要因として、専門家は、喫煙率が低いことと就業率が高いことを挙げておりますが、私は、医療体制が充実していることに加え、浜松が暮らしやすく、ストレスを感じる

ことが、少なくて済む街だからではないかと考えています。
全国を転々とする転勤族の方から、浜松はとても暮らしやすい街だという評判をよく聞きます。現に退職後、浜松を終の棲家に選んで頂く方も多いようです。浜松の中で生活していると普段気づきませんが、外から移り住んでみるとここはとても住みやすく、いい街なんだろうと思います。

長寿環境の整った浜松の中で、高齢者の皆様自身が、生きがいをもって、のびのび生活されることが何よりの健康の秘訣です。私たちも引き続き、健康づくりや生きがいづくりなど、健康寿命を延ばすための様々な取り組みを進めてまいります。

一方、時代とともに家庭環境も大きく変化し、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の割合が増え、全体の半分以上を占めるようになりました。こうした方が地域から孤立することなく、安心して暮らせるように、市民の支え合いにより、見守る仕組み「はままつあんしんネットワークづくり」もより一層進めてまいります。

これからも、「このまちに住んで良かった。そして、長生きして本当に良かった」と実感していただけるような地域社会づくりに邁進してまいります。どうぞ、皆様にも引き続きご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、皆様が益々お元気で、ご多幸でありますよう、心からお祈り申し上げますとともに、本日の式典の開催にあたりましてご尽力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成二十六年九月 日

浜松市長 鈴木康友

